KONKO Library ~since1943

金光図書館通信ミニ
NO.9　2017．12

# 金光図書館は
# あなたのサポーターです。

あなたの見たい・聴きたい・調べたい
・読みたいをお手伝いいたします。

放送センター所長　的場（まとば）　聡行（としゆき）先生
布教部部員　田中（たなか）　信野（しの）先生
おすすめの本を教えていただきました。

KONKO　Library
〒719―0111　岡山県浅口市金光町大谷 320
☎０８６５－４２－２０５４　fax０８６５－４２－３１３４
konko-library@konkokyo.or.jp
http://www.konkokyo.or.jp/konko-library
ブログ　http://ameblo.jp/konko-kyouco/

## こんな使い方があった
# 金光図書館の活用術

Q.勧学祭で、子どもたちに紙芝居や絵本の読み聞かせをしたいのですが・・・

A.はい！おまかせください。
お時間や、テーマをお聞かせ頂ければ、職員が選んで郵送いたします。もちろん、参拝時にお渡しすることもできます。お気軽にご相談ください。

Q.昔の教報に、ある先生のお話された記事があった。霊祭で使いたいのでコピーして送って欲しい。

A.教報は、明治 33 年から保存しています。先生の必要な記事をお探して、お送りいたします。
貸し出すこともできます。
どうぞお問い合わせください。

Q.教会で、教会誌や偲び草を出しました。図書館で保存してもらえると聞いたのですが..

A.ぜひ！図書館に寄贈してください。図書館をお教会の本棚としてご活用ください。大切に保存させて頂き、いつでも見られるように整理させて頂きます。

Q.ご本部参拝時に、お話のCDと、金光教の本を借りたいです。しかし、時間がありません。すぐに受け取りたいので、用意してもらえますか？

A.大丈夫です！
お電話、Fax で、事前にお申し込み頂けます。
また、インターネットでもご予約もできます。
詳しくは、お問い合わせください。

本に関することだけではなく、何なりとお尋ねください。

**金光図書館は、全国どこからでも、だれでも無料でご利用いただけます。**

# 本との出会い

今回は的場聡行（まとばとしゆき）先生・田中信野（たなかしの）先生が
おすすめの本をご紹介くださいました。

放送センター所長
的場聡行先生（上野芝教会）

『夜回り先生』
水谷修著・サンクチュアリ出版

『ルポ　保健室ー子どもの
貧困・虐待・性のリアル』
秋山千佳著・朝日新書

今から十年以上前だと思いますが、本の新聞広告に釘付けになりました。夜の町で、ロングコートを着た男性が、どこか寂しげに何かを見つめている写真。本の帯には、「悩んだら電話しなさい。水谷は、どこでも会いにいくよ」。タイトルは、『夜回り先生』（水谷修著・サンクチュアリ出版）。

「すごい人がいる！」と、即、本屋に買いに行きました。そして一読して、家族に勧め、それから知り合いに手当たり次第、勧めました。こんな経験は、ほぼ初めてだったと思います。

いじめ、貧しさ、虐待、性暴力など、すさまじい状況の中で生きる子どもたちが悲鳴を上げ、それを支援する水谷先生の命がけの姿が描かれていました。

格差社会、ストレス社会、地域や家庭の人間関係が薄くなっている、と言います。言葉ではさらっと簡単に書けるのですが、そのリアルな影響は、一番力の弱い子どもが受けます。

「とてもこんなことはできない。だけど、ほんの、ほんのささやかでも何かできたら」。そう思いました。

その願いを神様は聞いてくださったのでしょう。私は今、とある高校で、生徒たちの居場所になるカフェを作り、そこでささやかながら、彼らの悩みを聞き、支援する活動に関わらせてもらっています。「子どもの貧困」が今、あちこちで言われますが、生徒たちの現状は、やはり想像を超えるものがあります。しかし、現場で子どもと向き合えていることは充実感があり、神様に対して、よくぞこのような形で願いを叶えてくださったと、ありがたい気持ちでいっぱいになっています。

支援の勉強をするために、本をいろいろ読みます。

『ルポ　保健室ー子どもの貧困・虐待・性のリアル』（秋山千佳著・朝日新書）は、全国の保健室に持ち込まれている子どもたちの様子が、しっかり書かれています。

虐待を受けた女子中学生、インスタントラーメンしか食べていない男子中学生、いじめに合う性同一性障害の生徒…。

文中、「困った子は困っている子」という保健室の先生の間でよく言われる言葉が出てきます。つまり、何か問題を起こす困った子は、何か問題を抱えて困っている子である。つい、私たちは表面的な問題行動にとらわれてしまいますが、なぜそういうことをするかを見ていくと、何らかの原因があるということです。まさに、そうだと共感しました。

高齢者を支援する制度は様々にあるのですが、しんどい若者を支援する制度は、あまりありません。高校までは志ある先生たちが守ってくれても、その後、どうするか。

しっかり現状を知り、高校で、また教会のお取次の現場で、彼らの支援をしていきたいと思います。課題を突きつけられる二冊です。

布教部部員
田中信野先生（若津教会）

「からすたろう」　　文・絵：やしまたろう
偕成社

小学校２年生の夏休みに、私はこの本を読んで読書感想文を書きました。その時どんなことを書いたのか、内容は忘れてしまいましたが、「この本をよんで、わたしはなきました。おかあさんも、なきました」という書き出しだったことだけは覚えています。今回改めてこの本を読んで、やはり、目頭が熱くなりました。

みんなに無視され馬鹿にされているような、一見かわいそうな存在に見える少年のお話ですが、誰よりもたくましくて、羨ましいとさえ思えます。

“からすたろう”のように、どんな境遇でも悲観的にならず、自分なりに楽しく日々を送り、感性豊かに観察力や表現力を磨きたいと思うし、“いそべ先生”のように、他の評価や扱いを気にせずどんな人でも正面から向き合い、その人の長所を引き出せる人になりたいとも思う。また、“ぼくたちみんな”のように、すぐに自分の過ちを認めて、反省できる人でもありたい。そんな登場人物みんなが、私の憧れになりました。

少し暗めの絵に、シンプルな文章。何度も読んで、何度も感動できます。

老若男女問わず、いろんな人に読んでいただきたい絵本です。